

VR（バーチャル・リアリティ）認知症体験 セミナー～認知症を知り地域で支える～

社会福祉法人 東北福祉会

〒989-3201 宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6丁目149番地1

助成事業の概要

実施目的 我が国の認知症高齢者数は2025年には約700万人、65歳以上の高齢者の約5人に1人に達することが推計されており、国においても「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～（新オレンジプラン）」を策定し、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指している。

しかしながら、現在、一般社会において認知症に対する正しい理解は十分普及しているとはいえ、認知症当事者への偏見や誤解、他人事としての認識等が存在していることから、本事業では認知症への正しい理解をもち、認知症の人や介護をする家族の気持ちを理解することにより、「認知症を知り地域の中で支える」ことの重要性を普及・啓発することを目的に、以下の研修会を実施することとした。

時期 平成30年11月24日（土） 13時30分から16時10分まで

会場 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

研修名 VR認知症体験会 with 認知症カフェ取組事例紹介

内容 1) 認知症カフェ取組事例紹介
2) VR（バーチャル・リアリティ）認知症体験会

事業の成果

1. 研修事業「VR認知症体験セミナー～認知症を知り地域で支える～」は、研修名を「VR認知症体験会 with 認知症カフェ取組事例紹介」とし内容をわかりやすく実施した。研修会開催について法人ホームページで告知したほか、チラシ配布やFAX送信で広報した宮城県内の各所から介護サービス従事者、主婦等の地域住民、行政職員、学生等の参加があった。参加定員は機材準備の都合上定員50名での開催としたが、参加申込みは80名以上あり、キャンセル待ちをしてもらうこととした申込み者も多かった。このような状況は、認知症カフェに対する関心や認知症の疑似体験を通して当事者の気持ちを知りたいということが、認知症介護の専門職のみならず幅広い層で高まっていることを表しているといえる。また、当日は東北を拠点とする河北新報社からの取材もあり、参加者と同様に認知症を社会に発信する必要性について報道機関も関心が高いことを実感した。なお、臨場的な取材を行い社会に発信してもらう必要があることから、記者もすべてのプログラムに参加しVR体験を行った。
2. 認知症カフェ取組事例紹介は、当法人の5事業拠点のうち地域住民等とともに実施している認知症カフェ3つについて、目的、実施方法や状況を担当職員から紹介した。高齢社会（認知症の人が増加していく社会）に対して、地域包括支援センター、地区社会福祉協議会、

ボランティア団体等と協働して、認知症予防、認知症の人の理解に関する普及・啓発、地域の認知症に関連する諸課題を“我がこと”として捉え、地域で暮らし活動することの大切さについて実践報告を行った。研修会には、宮城県内の行政機関職員、地域包括支援センター職員も参加しており、担当地区等での認知症カフェ運営の参考にすることも目的であったと考えられる。この点からも、充実した認知症カフェ運営のヒントになる場面とすることができたと考えている。

3. VR（バーチャル・リアリティ）認知症体験会では、参加者がスマートフォン（VRアプリ設定）をセットしたゴーグルとヘッドフォンを着用して視覚と聴覚から、実際に認知症の人に日々訪れている出来事を4つの演習により疑似体験した。参加者は皆、非常に真剣に体験していて、ひとつ一つの演習ごとに認知症当事者の想いを理解しようとしている様子が表情からも確認できた。VRは仮想現実世界の体験であるが、当事者の想いを自らに置き換えて体験しやすく臨場的に捉えることができた体験会であったと考えている。
4. 参加者に対するアンケート調査結果から、多くの好評価を受けた。（研修事業報告書参照）

成果の広報、公表

1. 地方紙「河北新報社」発行の河北新報夕刊に取材記事が掲載された。（平成30年12月1日（土）付）
2. 社会福祉法人東北福祉会ホームページに本事業の実施内容及び成果を掲載する。
3. 研修事業実施「報告書」については、当法人ホームページから自由にダウンロード・プリントできるようにして、主に広報する。

今後の展開

1. 研修会で報告した当法人事業拠点と地域住民等との協働による認知症カフェの実践は、これからも月1回定期に開催して継続する。
また地域性や運営方法などから、住民協働型の認知症カフェ運営には課題を抱えているところも相当数あると想定され、当法人が関係する認知症カフェの実践について、ホームページによる情報発信はもちろん、貴会による平成28年度社会福祉助成事業により作成することができた認知症の普及・啓発と認知症の人の支援ツールである小冊子『私たちのまちに「認知症カフェ」をつくってみませんか?』を活用した情報提供と支援に努め、認知症の人が暮らしやすい社会づくり活動を継続する。
2. (株) シルバーウッドによるVR（バーチャル・リアリティ）認知症体験会の開催及び体験実績がある場合、特例的にVRアプリ及び機材のみをレンタルし、利用することができるの情報提供をシルバーウッド側から受けることができた。今後、社会情勢等も考慮しつつ、このVRコンテンツを利用して、介護サービス従事者等がより当事者の主観を理解し、その体験世界に基づいたケアを行うことができるよう内外の関係者に対する研修会等を企画・実行したいと考えている。

認知症を日本社会の大きな課題として、そして我がごととして捉え、認知症の人に対して温かく手を差し伸べることのできる人が増えていくための普及活動を実践する。